

第 79 回学術分科会における主な意見 (情報科学技術関係)

- セキュリティの問題について、今回は全て外国からの情報を頼りにした対応となってしまうので、学術界における検討課題として情報委員会でも議論して頂きたい。
- セキュリティの議論と絡めて、データをアップロードする側と、ダウンロードして使用する側、双方の研究倫理を検討課題として入れるべきである。
- 研究資源のデジタル化の議論があるが、その際には、研究資源とは本や論文などのテキスト資料だけではなく標本資料や物質資料も含めたものであることに留意いただきたい。
- 提言を書く上で、学術振興をどう進めていくかということと、学術が社会の負託に応えるための方策の両方の視点が必要であり、そのバランスが極めて重要。
- 提言の中の学術全般の部分と情報科学の部分とうまく交差させてシナジー効果が出るような工夫が必要。
- リアルとバーチャルをどう組み合わせるのが最適か、実験系と非実験系など様々な立場によってどういうことを変えていく必要があるか等、長期的な議論が必要。
- 情報科学技術に特化した議論だけでなく、これからの新たな学術交流に情報をどう使われるのか、幅広に議論が必要。
- 研究の自動化やリモート化は重要だが、分野によって態様が様々である。短期的には今のように強調して手当をしつつ、並行して調査を行い、中長期的には、よりエビデンスに基づいた予算措置につなげていけると良い。
- 研究、教育のリモート化・デジタル化には巨額の資金が必要。システムの構築に政府が相当大規模な投資をする必要があるということを文章の中で強調すべきではないか。
- NII は、全学術分野を支える礎になるとともに初等中等教育のサポートも行っており、独立した研究所になるべきではないか。(NII の独立については慎重な議論を積み重ねるべき、SINET のサポートや予算支援も一案ではないか、との意見もあり)

以上